

eitoeiko より岡本光博「あまざら」のご案内です

あまざら考

雨後の水たまりを石膏で固めて写し取り、粘土に置き換え金彩色の技法を用いて焼成する。岡本光博がはじめて手がけた陶芸作品を一言で解説すればそういうことになる。近年、「陶芸」は大きなブームとなっているが、土という自然／大地を素材とするオブジェが流行のロハス的なライフスタイルにぴたりとはまること、各地で無数に開かれる「クラフトイベント」が作り手の発表の機会を広げたことなどがその後押しとなっているのだろう。しかし、北から南までどのイベントでも同じような作品がずらりと並び、作り手の態度と受け手の意識（生活）はむしろ没個性的で均質化されてきているように思えてならない。一方、コンテンポラリーアートからの「陶芸」に対するアプローチも近年活発になっているが、それらは近現代

に強固な権威と化した「芸術としての陶芸」へのカウンターとして機能する。そもそも陶芸は自然素材と手業による偶像であるため、人の力を超越したところにある詩的な言語や「呪術性」、「神秘性」といったキーワードをもってよく語られてきたが、いわゆる陶芸家ではない現代作家の多くは、そうしたアウラをごっそりはぎとり、古来より連綿と続く伝統的な「造形」につらなる現代の表現を模



索し、両者の接続を試みようとしているのだ。岡本の本作にもそうした「現代」の日本文化における陶芸のありようが示されているが、さらにそこには没個性、反技巧、決定、反復、型、平凡といった民藝ほんらいの要素を備えた作為のない美が提示されており、形骸化した「民藝」へのアンチテーゼとしても生きてくる。自然が生み出す形にぴたりと寄り添い、一切の作為なきフォルムとマチエールが金彩によって極限まで引き出されたその造形美は見る者の心をいつまでも捉えて離さない。「器」というものの起源を考察するコンセプト的な作品であると同時に、「趣味」を超えたところで生活と伝統と美が融合する極めて純度の高いオブジェと言えるだろう。

工藤健志（青森県立美術館学芸主幹）

岡本光博

あまざら

5/31 から 6/13 まで

日本橋三越本店 6階アートスポット

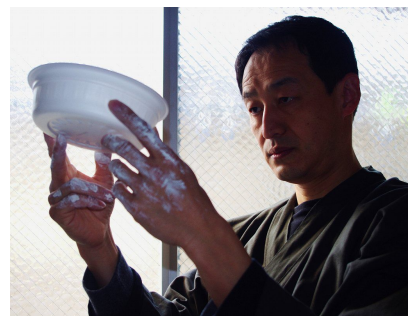
中央区日本橋室町 1-4-1

お問い合わせ

eitoeiko

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 32-2

<http://eitoeiko.com> 03-6873-3830 ei@eitoeiko.com



岡本光博…美術家／陶芸家。1968年東京都生まれ。現在 ARTZUID（アムステルダム）、ラブラブショー2（青森県立美術館）に参加中。6/17からは入江一郎、島本多とともにアルカイック・ヴァンガード（eitoeiko）に参加する。